

令和7年度版「学力向上ポータルポートフォリオ(学校版)」【大久保東小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査を通して、知識・技能の定着が課題であることが明らかになった。調査結果のリーフレットでも、「生活習慣等に関する調査」と「学力に関する調査」のクロス集計をすると生活習慣が整っているほど正答率も高くなる傾向があることが示されている。 引き続き繰り返し学習する機会を設定するとともに、音読や読書など言葉の意味や使い方、語彙を増やす学習習慣や早寝早起きなどの生活習慣を向上させる取組を行い、実践することが学力向上につながるかと考える。
思考・判断・表現	学習目標を立てたり、学習内容を振り返ったりする活動を通して、子どもたちは自分の考えを表現することに少しずつ抵抗がなくなってきた。今後は、必要な情報を正しく読み取る力をさらに育てるために、資料の読み取り、図やグラフの意味をつかむ活動、友達との対話や交流を通した学びなどを一層充実させていくことが課題である。また、問題文の条件を正確に理解するために言語力を高めるなど、基礎・基本をより一層定着させる工夫も必要である。 これらの取組を充実させていくことが、学力向上につながるかと考える。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 言葉の特徴や使い方に関する事項や図形の基本的な知識事項、四則演算のさまざまな応用の基礎的・基本的な知識・技能に課題が見られる。 <指導上の課題> 児童一人ひとりの課題に応じた学習内容の復習や振り返り、また、国語科における文法上の関係(主語述語の関係など)の理解の定着に課題が見られる。	⇒ 朝の学習の時間を利用して、「学習ドリル」や「ドリルパーク」など個別の学習進度や学習理解に合わせて取り組める教材を活用し、一人ひとりの理解の定着を図る。【週1回程度、朝の学習時間に実施】 学力向上カウンセリング学校訪問を利用して児童の実態把握を進め、本校の実態に沿った基礎的・基本的な知識・技能の向上を図る。【学力向上カウンセリング学校訪問・校内研修を実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 自分の考えを表現したり、長文の問題や多くの情報を整理したり、目的や意図に応じて情報を取捨選択したりする点に課題がある。 <指導上の課題> 多様な表現方法を用いる機会や、問題や資料の意図を確認しながら協働的な学びとなる機会を学習の中に設定する。	⇒ 授業では、目的や意図に応じて自分の考えを言葉や図で表現できるように「ミラシード」や「Microsoft Teams」、「Canva」などを活用する機会を多く設定する。【随時】 ICT機器を活用し、学習の振り返りを共有したり、考えを比べ合ったりする活動を通して一人ひとりの学びが深まるようにする。【単元ごと】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	知識・技能の定着を目的に、朝の時間に設定した短時間学習の時間や毎日の宿題等でドリルや学習プリントなど繰り返し学習できる教材の活用を継続的に行った。また、二度目の学力向上カウンセリング学校訪問を実施し、今年実施した全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた児童理解を研修した。 さいたま市学習状況調査の結果や課題からも設定している学力向上策は本校の課題に正対していると考えられる。成果に結びつくように継続して工夫しながら取り組んでいく。
思考・判断・表現	B	自分の考えを言葉や図に表現できるように、様々なソフトやアプリを活用する機会を設けて授業実践を行ってきた。また、学校課題研修と併せて学習目標を自分で設定したり、目標や学習内容の振り返り一人ひとりが行ったりする機会を設けた授業改善を実施してきた。 さいたま市学習状況調査の結果の考察からも、目標や目的に対して考えや根拠を表現したりするだけでなく、必要な情報を読み取ることができるようになるための工夫が必要である。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	漢字の記述に対する回答が平均より下回っており、無回答の児童も他の問題に比べて多くいた。算数、図形の問題では、作図や図形の性質について問われる問題で正答率が低かった。理科では、3年生や4年生で学習した内容が、5年生で学習した内容に比べて正答率が低くなっていた。 繰り返し学習したり、学習して時間が経過したりする内容について課題が見られる。そのため反復練習の方法や時期を課題として取り組む必要がある。
思考・判断・表現	国語では題材を読んでも内容の大体を捉えたり、必要な情報を見つたりする問題の正答率が他の問題に比べて低かった。算数でも、もとの値や単位に、わかっている値を変換する問題や二つの数値の関係に着目して必要な値を求める問題、また解き方を自分で考え、問われていることに対して答えを導き出す問題の正答率が低かった。理科では、学習した内容をいかして、実験方法を考えたり、問題を見出したりする問題で正答率が下がる傾向にあった。 問われている内容について正対した答えを導き出したり、問題に対して自分で考えたことを表現したりする視点に課題が見られるといえる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語や算数では、中学年に比べ高学年の方が正答率が高い傾向があった。国語では語彙・漢字・助詞・指示語など「言葉の特徴や使い方に関する事項」で正答率が低かった。算数ではとくに四則演算など基礎的な計算に関係がある「数と計算」で正答率が低い結果となった。一方、社会や理科では学年が上がると正答率が下がり、社会の「現代社会の仕組みや働く人々の生活」、理科の「エネルギー」や「地球」の領域の正答率が低かった。国語や算数については言語や計算力は低学年からの積み重ねが重要であり、低学年からの反復学習の充実が必要である。また、社会や理科については資料や結果を読み取る力や比較考察する力は経験や体験を高学年に向けて繰り返し学習する機会を充実させることが重要であると考えられる。
思考・判断・表現	国語では、「書くこと」の正答率から、文章の内容を理解できても、それを自分の言葉でまとめたり、理由をつけて書いたりすることに課題が多数と考えられる。算数では、「図形」や「データの活用」、「割合」などの内容理解に課題があると考えられる。学んだ内容を生活の場面に結び付けて考える問題では、学習したことと具体的な生活場面を結び付けて解答する力に課題が見られた。社会や理科でも思考・判断・表現の観点の問題の正答率から資料を比べて読み取る問題や、問題文の意図を正しく把握するところに課題が見られた。 いずれの教科でも、必要な情報を読み取り、自分の言葉で表現する点に課題があるといえる。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	毎週1回程度時間を設けて、朝の学習の時間を利用して、「学習ドリル」や「ドリルパーク」など個別の学習進度や学習理解に合わせて取り組める教材を活用し、一人ひとりの理解の定着を図ってきた。また、1学期は、学力向上カウンセリング学校訪問を実施し昨年度のさいたま市学習状況調査の結果や今年度の全国学力・学習状況調査の自己採点の結果を参考にして子どもたちの課題について傾向と対策を話し合う時間を設けた。	昨年度の結果をもとに設定した今年度の学力向上策が全国学力・学習状況調査の結果からも本校の子どもたちの課題に引き合わせていると考える。引き続き、繰り返し学習の定着を図る。引き続き、繰り返し学習の定着を図る。【週1回程度、朝の学習時間に実施】 学力向上カウンセリング学校訪問を利用して児童の実態把握を進め、本校の実態に沿った基礎的・基本的な知識・技能の向上を図る。【学力向上カウンセリング学校訪問・校内研修を実施】
思考・判断・表現	B	各教科の授業では、子どもたちが学習内容や目的に応じて自分の考えを言葉や図で表現できるように従来の紙媒体だけでなく、「ミラシード」や「Microsoft Teams」、「Canva」などのアプリ機能を選択できる機会を設け、目的や意図に応じて適切に活用できる方法の機会を設けた。例えば「Canva」や「Microsoft Teams」など活用する機会を設けた。【随時】 単元ごとに目標や意図に応じて自分の考えを言葉や図で表現できるように「ミラシード」や「Microsoft Teams」、「Canva」などを活用する機会を多く設定する。【随時】 ICT機器を活用し、学習の振り返りを共有したり、考えを比べ合ったりする活動を通して一人ひとりの学びが深まるようにする。【単元ごと、随時】	昨年度からの取組で成果が出てきたところもある一方で、全国学力・学習状況調査で新たに課題となることも見えてきた。引き続き目的や意図に応じて自分の考えを言葉や図で表現できるように「ミラシード」や「Microsoft Teams」、「Canva」などを活用する機会を多く設定する。【随時】 ICT機器を活用し、学習の振り返りを共有したり、考えを比べ合ったりする活動を通して一人ひとりの学びが深まるようにする。【単元ごと、随時】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)